

「有効性評価に基づく子宮頸がん検診ガイドライン更新版」公開のお知らせ

日本臨床細胞学会 渉外・広報委員会

2020年7月29日、国立研究開発法人国立がん研究センターより「有効性評価に基づく子宮頸がん検診ガイドライン更新版」が公開されましたので、お知らせします。

更新版のポイントは、検診対象年齢と検診間隔、検体採取法が明示され、検査方法として従来より推奨している細胞診（検診対象は20から69歳、検診間隔は2年）に加え、HPV検査単独法（検診対象は30から60歳とし、検診間隔は5年）も推奨グレードAとなりました。ただし、HPV検査単独法については判定結果毎の診療アルゴリズムが国内では未確定のため、検診としての導入には、その構築が必須条件であるとされています。

現在、健康増進法に基づく健康増進事業として市区町村が実施している子宮頸がん検診は、「有効性評価に基づく子宮頸がん検診ガイドライン」2009年度版が推奨するがん検診手法（子宮頸部細胞診）を使って「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」が定める内容で運用されていますので、直ちにHPV検査単独法が採用されるということではありません。

会員各位のおかれましてはこの「更新版」の内容についてご承知いただきますよう、お願いいたします。

詳細な内容は以下を参照ください。

「有効性評価に基づく子宮頸がん検診ガイドライン更新版」
(<http://canscreen.ncc.go.jp/shikyukeiguide2019.pdf>)

「子宮頸がん検診エビデンスレポート 2019年度版」
(<http://canscreen.ncc.go.jp/guidelin/shikyukeireport2019.pdf>)